

## 66 2-deoxy-2-<sup>18</sup>F-fluoro-D-galactose (<sup>18</sup>F-FDGa1) を用いた肝癌の診断

山口 慶一郎（東北大抗研放）、福田 寛（東北大サイクロ）、松沢 大樹、伊藤 正敏、阿部 由直、藤原 竹彦、川合 宏影（東北大抗研放）、多田 雅夫（東北大抗研薬理）、高橋 俊博、井戸 達夫（東北大サイクロ）

<sup>18</sup>F-FDGa1 は ポジトロン放出ガラクトース類似の化合物で、我々は先の核医学会でこの化合物が肝機能診断薬として使用できる事をすでに述べている。今回はこの薬剤を用いて肝癌の診断を試み、特異的な結果を得たので以下報告する。

ガラクトース代謝は成人に於ては肝臓に特異的に代謝される。一方Bauerらによって肝癌に於てもこのガラクトース代謝機能は保持される事がすでに報告されている。この保持されているという性質を利用してガラクトース類似のポジトロン放出化合物である<sup>18</sup>F-FDGa1 をもちいて肝癌の描出を試みた。肝癌の転移巣へは<sup>18</sup>F-FDGa1 は著しい集積をみせ、ポジトロンCT上陽性像として描出された。肝癌の原発巣においても周囲の肝組織に比べて高い集積を見せた。転移性肝腫瘍は陰性描出された。<sup>18</sup>F-FDGa1 は肝癌特有のトレーサーと考えられ、肝癌と転移性肝腫瘍の鑑別に有用であると考えられた。